

## 編集後記

「12月、山口市はクリスマス市になる。」 このコピー、大胆です。

山口市が「クリスマス市」として名乗り出したのは、歴史的な背景に由来しています。室町時代に山口を治めていた大内義隆が、フランシスコ・ザビエルによるキリスト教の布教活動を寛容に受け入れたことが始まりです。1552年の旧暦12月9日（西暦12月24日）には、日本で初めてのクリスマスが山口で祝われたと記録されているそうです。

では皆様、山口県におけるキリスト教普及には、視覚障害者の琵琶法師たちの活躍があったことをご存知でしょうか。彼らは、物語を語り伝えるプロフェッショナルであり、その技術を活かして聖書の教えを広めました。ロレンソ了斎やダミアンなどの琵琶法師たちが、重要な役割を果たしました。ロレンソはザビエルの手で洗礼を受け、将軍足利義輝、織田信長、豊臣秀吉などに謁見しています。またダミアンは宣教師の代理として山口で多くの人に洗礼を授け、樺野川近くの「一本松」で殉教したといわれています。琵琶法師は、身分や職業の違いを超えてどこにでも入っていくことができる中立的な地位を持っており、これが伝道に大変有利に作用しました。

琵琶法師たちが伝道師として有能だった理由は、なんと言っても彼らが物語を語り伝える事に長けていたからです。聖書も平家物語も、さまざまな場面に印象的な物語が豊富にあり、それらを綴り合わせる中から宗教的な感興が生まれてくるという構造が良く似ています。琵琶法師は、聖書という一大叙事詩を語り伝えるのにうってつけのプロ中のプロでした。また、彼らは教養が非常に高く、日本の古典や宗教の豊富な知識を持っていました。それらの知識を基にキリスト教を深く理解し、それを誰にでも理解できるよう噛み砕いて、芸術性と娯楽性の形に再構成するスキルも持っていたのでしょう。

さらに、琵琶法師は優れた記憶力を持っており、短期間のうちに聖書の膨大な知識を正確に記憶することができました。このような能力は、イエズス会の宣教師たちにも認識され、彼らは積極的に琵琶法師を伝道の資源として活用していたそうです。私なんかは、琵琶法師といえば、『祇園精舎の鐘の音』とか「耳なし芳一」しか思い浮かびませんが、彼らのキリシタン琵琶法師の音楽語りはどんな響きだったのか聞いてみたいですね。

このように、山口市が「クリスマス市」として知られる背景には、琵琶法師たちの地道な努力があったことを、ぜひ知っていただきたいと思います。

（常任理事 長谷川奈津江）

## ◀山口県医師会公式 Instagramのご案内▶

山口県医師会では公式 Instagram を開設し、県民へ健康に関する情報や山口県医師会のイベント情報や活動の周知を行っています。

ぜひ、フォローをお願いします！

URL：<https://www.instagram.com/ymasns/>

